



帳ヶ塚

大洲の落合町にある小高い丘に「帳ヶ塚」の碑と供養塔が建っています。これは、自分の身の危険も顧みず、年貢を軽くしてくれと、代官所に願い出て、死罪となった落合の名主、新右衛門を供養したものです。今回は、帳ヶ塚の近くにお住まいの勝亦吉信さんから、お話を伺いました。

江戸時代は年貢が厳しく、飢饉があると、農民は食べるものがなくなり、多くの人が飢えて亡くなりました。今から約二百年前のこと、落合の名主、新右衛門は、日ごろから村の作高と年貢の関係を詳しく帳面につけ、年貢がしっかり納められるよう調べていました。ところが、大きな飢饉が、この地方を襲いました。後に言う天明の大飢饉です。新右衛門は、領主に「年貢を軽くしてほしい」と再三願い出ましたが、「年貢米は、決められたとおりに納めろ」と聞き入れてもらえませんでした。そのため、新右衛門は仕方なく、落合、中野、片倉、三ツ倉の四カ村の代表として、訴状を持って江戸に旅立ったのです。

しかし、何日経っても、新右衛門からの連絡はありません。そして一カ月後、新右衛門の死が伝えられました。新右衛門は、直訴の罪で、よく調べられることなく、打ち首になったのです。ただし、新右衛門の死はむだにはなりません。新右衛門が持参した書類を後から役人が読んで、年貢が軽くなったのです。村の人たちは、村の小高い丘の上に、訴状の下書きや血判状の控え、新右衛門の日記などを埋めて供養塔を建て、「帳ヶ塚」と呼んで後世まで供養したのでした。



▷新右衛門の供養塔「帳ヶ塚」

昭和五十四年に「帳ヶ塚」を整備する目的で、供養塔の下を掘り返してみました。訴状の下書きや血判状の控えなどは、出てきませんでした。何しろ二百年も前のことだから、紙が土にかえてしまったのではないのでしょうか。今では、毎年四月の第一日曜日に、お経を上げて供養しています。四、五年前まではお祭りにもぎやかだったんですが・・・。



勝亦吉信さん（落合町）

こちら編集室

ここ数年、出産や育児に関する雑誌の売れ行きが好調だと聞く。「ヤンママ」という言葉が流行したり、ベビー用品も多種多様なものが出回ったり…。出産や育児も「おしゃれ」の時代に突入したのだろうか。そんな影響が少しでもあったの

か、少子化について、さまざまな議論が交わされている中、平成6年の富士市の出生数は2,658人と平成五年から比べ97人もふえている。ことしは終戦50年。これから生まれてくる子供たちに「平和」を引き継ぐことが、私たちの義務なのだと実感する。（ヤイツァ）

人口 233,070人
 男 116,246人 女 116,824人
 世帯 73,505世帯 (7月1日現在)
 発行・編集 富士市総務部広報広聴課
 富士市永田町1-100 ☎51-0123

